

## 平成27年度教育事業 幼児の体験活動推進事業

### 「おやかんかく発見隊」

#### 1 趣旨

五感を活かした親子での体験活動を通して、豊かな情操を育むための体験活動に対する保護者の理解を深める。

#### 2 主催

独立行政法人 国立青少年教育機構 国立花山青少年自然の家

#### 3 協力

アトリエ自遊楽校（宮城県仙台市）

#### 4 後援

宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

#### 5 期日

平成28年 2月20日（土）～21日（日）

#### 6 参加対象と人数

幼稚園・保育園年中・年長児と保護者（30組）

#### 7 参加状況：全日程参加26組67名

	宮城県		岩手県		計
	男	女	男	女	
幼児	11	15	1	0	27
保護者	14	19	0	1	34
小学生	2	4	0	0	6
	27	38	1	1	67

※上記の参加者とは別に夜のコンサートへの参加3組30名あり

※全日程の小学生は幼児の兄弟として参加

#### 8 プログラム計画のポイント

本事業は幼児とその保護者を対象にし、五感を使った体験活動の啓発をねらいとしている。昨年度は、近隣の施設を利用した体験活動を実施したが、今年度は花山青少年自然の家をベースに、「自然体験」「絵本」という要素を取り入れ実施することとした。また、昨年度好評だった「音楽」での身体表現活動も取り入れ、幼児の五感を刺激する活動を通して保護者の体験活動への理解を深めたいと考えた。昨年度のアンケートに保護者の情報交換の場がほしいとの声もあり、「子育てカフェ」を設けて子育てに関する情報交換の場を設置した。本事業

のプログラム構成の主なポイントは次の通りである。

- ① 帰宅後も自宅周辺などの身近な自然を楽しむことができるように、「ネイチャーゲーム」を取り入れ自然を見つめる目を養う。
- ② 幼児の豊かな情操を養うために絵本をテーマにした活動を取り入れ、親子で創作する活動を通して絵本をより楽しめるようにする。
- ③ 保護者の情報交換の場「子育てカフェ」を設け、保護者が子育てについて会話ができる時間をつくる。

## 9 活動プログラム

### (1) 2月20日(土) 【国立花山青少年自然の家】

1日目	
午後	13:00 受付
	13:30 『はじまりの会』
	14:00 はなやましぜんあそび『自然を五感で感じてみよう』 講師：宮城県ネイチャーゲーム協会 咲間 奏、上林 とも子 氏
	16:30 入浴
	17:20 夕食
夜	18:30 見て、聞いて体を動かそう『あそびうたコンサート』 出演者：アトリエ自遊楽校 あきらちゃんコロッケくん
	20:20 保護者：ゆっくりたいむ『子育てカフェ』 幼児：ボランティア企画『お兄さんお姉さんと遊ぼう』
	21:30 就寝

### (2) 2月21日(日) 【国立花山青少年自然の家】

2日目	
午前	7:15 朝のつどい、健康観察
	8:30 朝食
	9:00 せかいにひとつだけのえほん『ぺったんぺったん親子で絵本づくり』 画家、絵本作家 さいと ゆふじ 氏
	12:00 昼食
午後	13:20 アンケート記入
	13:30 『おわりの会』

## 10 実施状況

### 〔2月20日(土)〕1日目

#### ◇ はなやましぜんあそび『自然を五感で感じてみよう』

「はじまりの会」の後、着替えを済ませてピロティに集合した。簡単なアイスブレイクの後、「ネイチャービンゴ」、紙芝居「むしたちのかくれんぼ」、「カモフラージュ」など、視覚、聴覚、触覚を用いたネイチャーゲームを体験していった。後半は雨の中であったが、雨音や鳥の声を聞きながら紙芝居を見たり、草木の中に隠された人工物を探したりする活動を楽しむことができた。



「アイスブレイク：でたぞでたぞ」



「ネイチャーゲーム：カモフラージュ」



「ネイチャーゲーム：ネイチャービンゴ」①



「ネイチャーゲーム：ネイチャービンゴ」②

◇ たのしいおんがくたいむ『見て聞いて体を動かそう！あきらちゃんコロッケくん遊びうたコンサート』

楽しいトークの中、メロディーやリズムに合わせて体を動かしながら、コンサートを楽しむことができました。最初は恥ずかしがっていた参加者もどんどん前に出て歌ったり踊ったりすることができました。また、出演者からのメッセージには子育てについて考えさせられることが多かった。子ども、保護者、スタッフ全員が楽しみ、学べた時間だった。



「あきらちゃんコロッケくんと子どもたち」



「子どもからお年寄りまで参加」





「会場にいるみんなでダンス」



「出演者、参加者みんなで記念撮影」

◇ 保護者：ゆっくりたいむ『子育てカフェ』

幼児：ボランティア企画『お兄さんお姉さんと遊ぼう』

子どもから離れて保護者の情報交換の場を持った。初めて出会う保護者が多かったため、サイコロの出た目の話題について話し合う方法を取り入れた。次第にグループも和み、フリートークになっていった。子育てカフェの間、子どもたちはボランティアと実習生と一緒に、レクリエーション、絵本、お絵描きなど、それぞれの希望に合わせて時間を過ごした。



「和やかな雰囲気の子育てカフェ」



「最初の話題はサイコロの目に沿って」



「お兄さんお姉さんと遊ぼう」①



「お兄さんお姉さんと遊ぼう」②

〔2月21日（日）〕2日目

◇ せかいにひとつだけのえほん『ぺったんぺったん、親子で絵本づくり』

落ち葉、ダンボール、藁縄、たこ糸、羽、毛糸など、さまざまなものに絵の具をつけ、画用紙にスタンプしていった。偶然できた形から想像力を膨らませ、起承転結のお話を作っていった。用意した材料にとどまらず、手で直接描いたりダンボールを立体的に利用したりするなどさまざまな工夫が見られた。



「講師の実演に歓声上がる」



「いろいろな材料でスタンプ」



「彩りよくできた参加者の作品」



「会場全体図」

11 保護者の感想より

- あきらくんコロッケくんのコンサートでは、たくさん笑わせていただきました。親子であんなにたくさん一緒に笑えたのは久しぶり。舞台上に立つ、行こうとする気持ちも仲間に支えられて少し出てきた一面も。短期間プログラムとはいえ有意義でした。
- もっとたくさん参加していきたいですが、年長なので最後となってしまい残念です。職員の皆様が温かく子どもたちを見守ってくれていること、講師の先生の一言一言がとても素敵で、うれしく思いました。
- いっぱい笑ってみんなで楽しい時間を過ごすことができました。絵本作りのプログラムもよかったです。おじいちゃんおばあちゃんも孫たちと楽しく過ごせて喜んでいました。コンサートでもいっぱい笑いとでもたのしかったと話していました。
- 普段3人兄弟の末っ子なので、こんなに2人きりで過ごしたことがなかったので、とても大切な時間を作れてよかったです。たくさん笑って、あきらちゃんとコロッケくん、ネイチャーゲーム、絵本作り、とても楽しかったです。



- 楽しく過ごせました。集団での生活をする機会が少ないため、良い体験になりました。
- 主な活動はもちろんですが、たんけんゲームとか子育てカフェとかそういった内容も楽しめました。
- この機会を通して成長していく子どもたちを感じることができました。昨年よりも内容が更に充実していて満足です。
- 子育てカフェよかったです。いろいろな情報交換ができました。
- アウトドアなどは苦手な私。この2日間でいろんな人に出会えた。自分の中でもとても充実したものとなりました。学生さんが準備してくれた子育てカフェもとても盛り上がりました。
- 今後も機会があれば参加したいのと、家族等で自然体験を行いたいと考えています。

## 12 成果と課題

### 【成果】

- ・ 2日間を通して、参加者の期待に応えるプログラムを提供できた。保護者の感想からも、事業に参加してよかった、満足のいく事業だったという感想が多くあった。
- ・ 昨年度の事業アンケートを活かし、保護者の交流の場「子育てカフェ」を設けた。活動プログラムの中で生まれた交流をさらに深め、子育てに関する情報を交換する場としてたいへん良い時間となった。
- ・ 本年度は自然の家の環境を活かしたプログラムを編成した。自然環境を活かし、子どもたちの「五感」に迫ることができた。事業テーマに沿った自然環境を活用したプログラムも十分可能であることがわかった。
- ・ 昨年度の傾向から、自然体験活動への関心が高い都市部である仙台方面への広報を多くしたところ参加者の増加に繋がった。また、参加した祖父母からよい感想があり、3世代で楽しめる事業であることがわかった。
- ・ 本事業に携わったボランティアや実習生から、たいへん勉強になった、成長できたという感想をもらった。講師とともに、活躍の場を作ったり企画を考えさせたりすることで、学生達の成長を促すことができた。

### 【課題】

- ・ 悪天候でのプログラム実施のため、思うように進行しない場面があった。寒く感じた方や室内でできたと感じた方なども一部にいたので、プログラムに狙いがあり、多少の荒天でも外で実施する意味を保護者に理解を得られるようにしたい。
- ・ 幼児を持つ家族単位での移動、集合のため、時間通り集まらず、予定通り行かないという場面が多くあった。時間を意識させる工夫も必要である。
- ・ 絵本作りでは制作に飽きる場面もあったので、メリハリのある時間構成、プログラム構成が必要である。